

「知への初々しい憧れと畏敬の念」

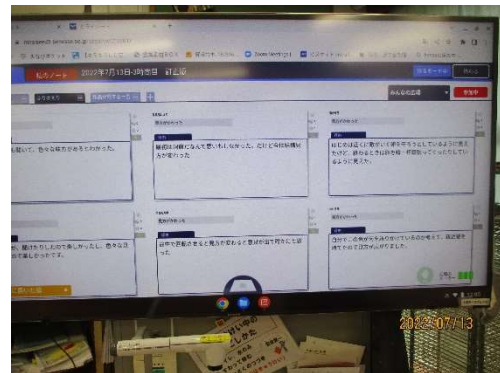
～子どもの学びを支える教師力・学校力の強化～

校長通信第79号

令和4年7月21日

夏休栴谷小 ICT 活用について

2学期の授業観察はICT（タブレット）を活用した授業を図画工作科の先生が「みる・つながる・感じる」という題材で実践してくれました。鑑賞の授業です。画伯「川端龍子」が描いた「臥龍」の絵画を見て、ひとりひとりが感じたことを文章に表し、交流する展開です。授業のねらいは、これまでの授業と何も変わりはありません。手だてに、タブレットのムーブノートの活用を図るというものです。2030年を見据えたよき授業だと思いました。この川端龍子の臥龍は、敗戦後の日本を表しているということです。龍子という人がどういう人なのか、少し分かりました。ますので、夏休み中に作成をお願いします。次を参考に、フォーマットを例に授業案を作成してください。



OJT報告(写真を撮り忘れました。)

7月14日（木）、第4回OJTを開きました。内容はまず、特別支援教育について、サポートルームの山口先生からご指導をいただきました。冒頭、特別支援教育の位置付けについて、「障害の有無に関わらず、あらゆる困り感を抱く児童に対して、個に応じた支援を行い、学級という集団の中で育てていく。個に応じた支援は学級全体にとっても有効な支援であることが大切である」ということを教えてくださいました。いわゆるユニバーサルデザインです。特別支援教育の視点は、学級全体にとっても有効なものです。演習もあり、席替えのコツをユニバーサルデザインの視点で教えてくださいました。

次に、校長から人権教育プログラムを使って、人権教育について講義がありました。人権とは「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」の確認をし、人権教育には「普遍的な支点からの取組」と「個別的な視点からの取組」があること、教師の人権感覚を磨くために「確認してみましよう、あなたの人権感覚」の頁の内容を確認しました。